

# 1. 評価報告概要表

作成日平成19年 7月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 1070101470
法人名	医療法人緑成会 杉本病院
事業所名	グループホームルルドの家
所在地	群馬県前橋市公田町1165 (電話) 027-265-6222

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年7月4日

## 【情報提供票より】(H19年 6 月 22日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14.2 人

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A棟40,950円 B棟47,250円	その他の経費(月額)	寝具代として1日150円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 110000円 ~130000円	有りの場合 償却の有無	有 (返金は退去時に原則として全額)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	400 円
または1日当たり 1200円				

### (4)利用者の概要( 6 月 22日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	杉本病院 万代歯科診療所
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ルルドの家」は、利根川に隣接した前橋市南部の緑豊かな住宅街にある。広い敷地には良く手入れされた広々とした芝生と、大木の緑陰には数脚のベンチが配置され入居者がお茶の時間を楽しむことができる。ホームの運営は医療法人が行い、系列のグループホーム「みどり荘」やデイサービスセンターが近くにあり、病院と共に互いに連携し、入居者一人ひとりに合わせた、家庭的な雰囲気の中で日常生活がおくれるようサービスの提供に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は、①地域との係わり、②家族との係わり、③経営者と管理者・職員との係わり、④入居者の決定等があったが、改善に向けて話し合いを行っているが種々の制約もあり、改善への取り組みはされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に当たっては職員の意見を聞き、その結果については職員に伝え、職員会議でも話し合ったが、種々の制約等もあり改善の取り組みはされていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員等地域住民、市の担当者等で構成し、会議では事業所から運営状況等を報告し、委員から質問や意見等を聞いている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との面会時に希望や意見を聞いて、家族の意見、要望を採り入れホーム運営やケアに反映させている。また意見箱も設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域で開催される納涼祭には参加しているが、地域の自治会や老人会が開催する文化祭や敬老会等には参加していない。

## 2. 評価報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの「私達は、心の癒しを介護の心とします」という理念を、誰にも分かり易くかつ具体的なものとするよう職員から提案され、平成18年に話し合い、暫定的な理念として「私達は、温かい眼差しと、いたわる気持ちを介護の心とします。」としている。	○	地域密着型サービスの観点から更に地域生活の継続を支えるためのケアを考えた理念を作り上げていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員採用時に理念を説明し、毎日の業務内容を注視し、その時々で理念に基づくサービスの提供について指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催される納涼祭には過去2年参加しているが、その他、地域の自治会や老人会等が開催する敬老会や文化祭等の地域活動には参加していない。職員からは地域の人達にアピールする方法を考えて欲しいという提案もされている。	○	地元の人達との交流を促進されるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては職員の意見を聞き、その結果を職員に伝え、職員会議でも話し合っている。なお、自己評価や外部評価の結果について種々の制約もあり改善の取り組みはされていない。	○	自己評価や外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し取り組まれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、民生委員等地域住民と市の担当者で構成し、会議では事業所から運営状況等を報告し構成員から質問や意見等を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議や介護認定の見直しで家族の代理として接触しているが、それ以外での接触はしていない。	○	市の担当者と緊密な連携を取り、サービスの質の向上に取り組むよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者が発熱等の時家族に電話をしている他、預り金の精算を定期的に家族に報告している。	○	家族が知りたいことを把握し、定期的な報告について工夫されるよう期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時に希望や意見を聞いて、家族の意見、要望を採り入れホーム運営やケアに反映させている。また意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行っているが、入居者のために最小限の異動に止めている。入居者と職員の相性の問題は起きていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や介護支援専門員は研修に参加し、その内容を職員会議で報告している。その他の職員については採用後2か月間は教育担当職員とし、指導しているが、制度としての研修計画は立てておらず、また研修への参加もない。研修のチラシは供覧されるが受講は個人参加である。	○	研修計画を樹立し職員の資質向上を図られるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会には、医療法人が設置している系列のグループホームが加入しているので、「ルルドの家」は加入しておらず、同業者との交流もない。	○	同業者との交流促進によりサービスの質の向上を図る取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と面談し、希望や意見を聞いて、安心して日常生活がおくれるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	七夕飾り・塗り絵・高齢者用ドリル・掃除・洗濯物たたみ等を利用者と職員が一緒に行い、食事の作り方、昔の生活様式を聞くなどし、お互いが協働して和やかに生活出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	美容院へは家族又は職員が送迎し、食事の嗜好は2カ月に1回希望を取る等日常的に入居者の意向の把握に努めている。また外部への通院希望等は利用者本人の意向を尊重すると共に、意思表示困難な利用者の場合は家族から確認し、意向に添えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、担当者から日々の問題点やモニタリングの状況を発表し、「できることできないこと」シートや面会時の家族の希望・意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し案をご家族に見てもらい、意向等を聞いて、同意を頂いた場合は押印を頂いている。介護計画の見直しは、3カ月に1回の他必要に応じて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	帰宅願望の強い利用者には隣接した系列のデイサービスセンターを利用(無料)している。通院や美容院の送迎、外泊は家族と相談し行う等必要な支援に対して柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族が希望するかかりつけ医の受診は家族が同行することになっているが、状況によっては職員も送迎している。また、かかりつけ医がいない場合は、系列の医療機関と緊密な連携のもとに受診している。利用者全員に法人の院長が2週間毎に定期検診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	設置主体である医療法人が経営する病院からホームへ入居する人がほとんどで、方針として重度化した場合や終末期の状態にある利用者は、以前入院していた系列病院で治療できるような連携をとっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けるよう、会議やカンファレンスの時、管理者から職員に話している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、朝食を遅らせて食べた人には時間をずらし、夜間眠くない人にはホールでゆっくり過ごしてもらおう等対応している。またそれぞれの希望に添えるよう、誕生会で好みのものが食べられるようにしたり、レクリエーションはやりたくないと言う利用者には無理強いせず配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
g					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査を2か月毎に行い、管理栄養士が献立を作り、職員と利用者が配膳や下膳を共に行う等食事を楽しくできるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回で、午前中は機械浴、午後は自立している入居者の入浴となっている。入浴に関して利用者の希望は取っていない。	○	一人ひとりの希望を聞き入浴ができる支援を期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が組織した老人会があり、会長、副会長2名が選出され、食事時の挨拶係、配膳、下膳、掃除、モップ掛け、草むしり等能力に応じた役割が決められ、張り合いのある生活を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を立て、リハビリテーションを兼ねた買い物、初詣、ドライブによるお花見や紅葉狩り等できるだけ戸外に出掛けるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯、徘徊等に対応するため正門・玄関に鍵を掛けている。	○	日中は玄関等に鍵を掛けない工夫について検討するよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による避難訓練や応急処置として人工呼吸の方法等を行っているが、地域の人達の協力を得られるような働きかけは行っていない。	○	災害等にあたっては地域の人達の協力が得られるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのある食事について管理栄養士が毎日の献立表を作成している。職員は健康チェック表により一人ひとりの水分摂取量・食事摂取量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関フロアには応接セットや草花・樹木の鉢が置かれ、居間兼食堂にはテーブルの他ソファーや一人掛け用の椅子が配置され、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具やテレビが持ち込まれ配偶者の遺影や塗り絵が掲げられている。また洋服が着替えやすく、おしゃれを楽しめるような取り出しやすい洋服掛けを持ち込まれたり、利用者本人の好みを尊重した居室づくりになっている。		